

かしわぎ

東京医科大学病院

総合相談・支援センターだより



Vol. 61

2021/05

Department Introduction



皮膚科



乳腺科



炎症性腸疾患(IBD)・
良性腸疾患センター

タイトル〈かしわぎ〉とは

都電が走っていた頃は、通称「かしわぎ病院」と呼ばれ、
地域住民の皆さんに親しまれていたことから、
タイトルに「かしわぎ」と名付けました。

皮膚科

Dermatology



原田 和俊 HARADA Kazutoshi

皮膚科学分野 主任教授
(皮膚科 診療科長)

難治性皮膚疾患へ積極的アプローチ

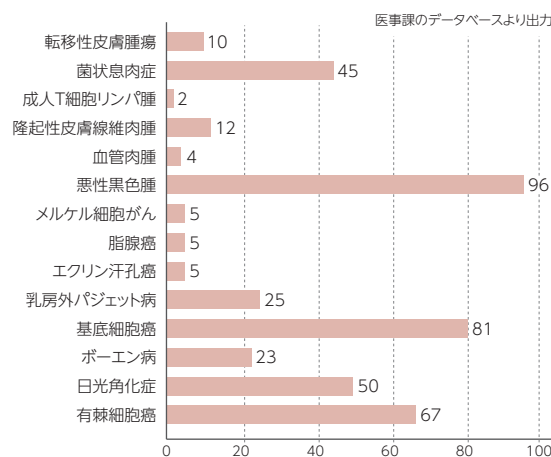
東京医科大学皮膚科では、コモンディーズから難治性皮膚疾患まで、皮膚のトラブル全般に対応いたします。当科では近年、増加傾向にある、皮膚悪性腫瘍治療に力を入れており、悪性腫瘍手術件数は都内有数の症例数を誇ります。また、高い治療効果を示す生物学的製剤治療を積極的に導入し、尋常性乾癬・慢性蕁麻疹・アトピー性皮膚炎の重症例にも対応しております。その他、脱毛症・白斑・遺伝性疾患・爪疾患などの専門外来を開設しており、各分野のサブスペシャリティーをもつ医師が専門的な治療を行っています。また、新薬の開発に協力するため、臨床治験も実施しております。皮膚疾患の診断・治療に苦慮されている症例がございましたら、ご紹介ください。

皮膚悪性腫瘍

悪性腫瘍は、腫瘍を全て取りきることができれば根治が望めますので、第1選択肢は手術となりますが、患者さんの全身状態や転移がある場合など手術のみで解決しないことも少なくありません。こういった場合は放射線療法、化学療法を組み合わせ、患者さんのQOLを損なわないような治療法を、患者さんやご家族と相談の上、選択してまいります。

近年、次々と開発されている分子標薬や免疫チェックポイント阻害薬は皮膚悪性腫瘍に対しても高い治療効果を示します。以前では治療方法がなかった、進行期の皮膚悪性腫瘍も、現在では治療が可能となる症例も増えてきております。

2019年皮膚科外来悪性腫瘍患者数(継続患者含む)



乾癬・掌蹠膿疱症



乾癬・掌蹠膿疱症の治療は、新しい治療薬として生物学的製剤が登場して以来、大きな変化を遂げました。当科ではこれまでの乾癬治療の基本である、外用療法、免疫抑制剤の内服、紫外線療法をベースとしつつ、皮疹が広範囲な症例や、関節痛を伴う症例に対し、経口免疫調整薬と生物学的製剤を積極的に投与し、患者さんのQOLが改善されるように治療法を選択しています。生物学的製剤は多くの選択肢がありますが、当科は治療経験が豊富です。患者さんごとに最適な薬剤を選択しております。乾癬・掌蹠膿疱症の治験も行っておりますので、患者さんのご紹介をいただけると幸いです。

アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患

日本皮膚科学会の「アトピー性皮膚炎治療ガイドライン」に沿って、小児から成人まで患者さん一人ひとりに合わせた治療を行っています。まずは悪化因子の精査を行い、症状に応じてプロアクティブ療法を積極的に導入し、悪化を未然に防げるように指導しております。また免疫抑制薬や紫外線療法、生物学的製剤の投与も行っています。

小児のアトピー性皮膚炎は、食物アレルギーが関与していることがあり、小児科アレルギー外来と連携しながら治療を行っています。

難治性の特発性蕁麻疹に対しては抗IgE抗体製剤を積極的に使用しています。また、食物アレルギーの原因検索を得意としており、経験が豊富です。



患者さんのご紹介について

TEL 03-5339-3808 (医療連携担当直通)

平日 8:30~16:40 / 第1・3・5土曜日 8:30~11:40

医療連携担当にお電話いただき、予約をお取りください。

専門外来への直接のご紹介は受け付けておりませんが、初診医が必要と判断した場合には、専門外来担当医と一緒に診察することがあります。初診以降は専門外来の予約を取り、通院していただきます。

氏名	職名	専門分野	初診外来診療日
原田 和俊	主任教授	皮膚腫瘍、脱毛、爪疾患、真菌症	火 AM 水 AM
大久保ゆかり	教授	乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎	月 AM
堺 則 康	准教授	遺伝性皮膚疾患、血管炎、水疱症	水 AM 木 AM
伊藤 友章	准教授	アレルギー性皮膚疾患、膠原病	火 AM 金 AM 土 AM
阿部 名美子	講師	乾癬、掌蹠膿疱症、白斑	金 AM
入澤 亮吉	院内講師	皮膚腫瘍、脱毛症、爪疾患	月 AM
前 賢 一 郎	助教	皮膚腫瘍	土 AM

乳腺科

Breast Surgery and Oncology



石川 孝 ISHIKAWA Takashi

乳腺科学分野 主任教授
(乳腺科 診療科長)

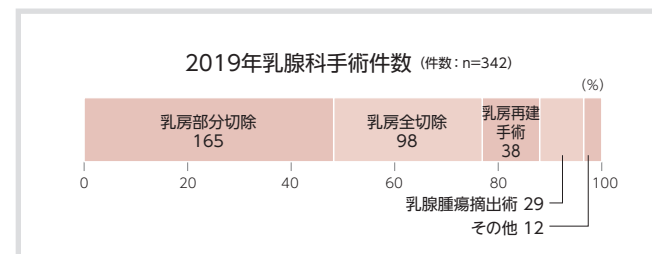
信念：患者さんの病状やご希望に応じて 最適な治療法を提供する

当科は乳がん治療に特化した診療科であり、一人ひとりの患者さんの病状とご希望を考慮して最適な治療法を提供することを信念に掲げています。

乳がんの病態は多様性に富むため、治療法は患者さんごとに異なります。私たちは乳がん治療の専門家として目の前と将来の患者さんを救うべく、臨床及び基礎の研究を進めながら、最適な治療を提供するとともに治療の進歩を目指しています。

形成外科と連携した整容性の高い手術

当科では年間約300例の乳がん手術を行っています。乳房再建手術に関しては、形成外科と密接に連携して患者さんの状態に合わせた乳房再建術を行っています。さらに乳がん看護の専門看護師が、治療から日常的な悩みに至るまで対応しています。乳腺科はチームとして、治療から患者さんの心のサポートまで行って、患者さんを全面的に支えてまいります。



合同カンファレンス

乳がん治療は個別化が最も進んでいる領域です。そのため治療法は複雑化していて、いくつかの選択肢の中から患者さんに最適な治療法を選ばなければなりません。当院ではすべての患者さんの治療法について、毎週、手術の前と後に外科医、形成外科医、病理医、放射線科医および放射線技師による合同のカンファレンスで話し合っています。

次世代の治療を担う大学病院としての役割

次世代の治療を担う大学病院の責務として、国内外の施設とともに積極的に基礎及び臨床研究を行っています。

さらに新しい治療をできるだけ早く患者さんに届けるために全国規模の臨床試験や治験にも積極的に参加しています。患者さんのプライバシーや人権を最大限に尊重した上で数多くの研究や試験が行われているので、ご理解いただきたいと思います。

多くの治験が行われていて新規の薬剤も条件が合えば使用することができます。気軽にご相談ください。



地域との医療連携

当科では、総合相談支援センター医療連携担当を介して「東京都医療連携手帳(地域連携クリティカルパス)」を運用しています。ご紹介くださった先生はもちろん、患者さんのお住まいを考慮して、連携施設としてご案内させていただきます。

治療およびその後の経過観察や必要時の検査は責任もって行います。有症状時の初期対応や定期的な処方などご支援いただけたら幸いです。

患者さんの受入れには紹介状が必要となります。その際に組織生検や細胞診の標本がございましたら、借用させていただきますと存じます。すべての患者さんを責任もって拝見いたしますので、ぜひご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

患者さんのご紹介について

医療連携担当にお電話いただき、予約をお取りください。

TEL 03-5339-3808 (医療連携担当直通)

平日 8:30~16:40 / 第1・3・5土曜日 8:30~11:40

氏名	職名	初診外来診療日
石川 孝	主任教授	月 AM 火 AM
山田 公人	准教授	水 AM
海瀬 博史	講師	木 AM
宮原 か奈	講師	金 AM
木村 芙英	兼任講師	水 AM (第2、4週)
河手 敬彦	助教	木 AM

氏名	職名	初診外来診療日
岡崎 美季	助教	月 AM
浅岡 真理子	助教	火 AM
織本 恭子	臨床研究医	木 AM
安達 佳世	後期臨床研修医	金 AM
呉 蓉 榕	後期臨床研修医	水 AM
岩井 真花	後期臨床研修医	月 AM

炎症性腸疾患（IBD）・ 良性腸疾患センター



勝又 健次 KATSUMATA Kenji

炎症性腸疾患（IBD）・良性腸疾患センター長
（消化器外科・小児外科学分野教授）

潰瘍性大腸炎（Ulcerative Colitis: UC）とクローン病（Crohn's Disease: CD）に代表される炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease: IBD）は腸管の免疫異常によって発症する慢性で難治性の疾患であり、多くは若年期に発症して再燃と寛解を繰り返します。近年、本邦でもIBDの患者数の増加は著しく、UC患者数は16万人を超え、CD患者数は約4万人となり、世界有数のIBD罹患国となっています。同時に多くの薬剤が認可され、薬物治療の選択肢が増えてきました。

一方、他の良性腸疾患としては機能的腸疾患の代表である過敏性腸症候群や、憩室症、腸管捻転、慢性便秘症などが挙げられます。過敏性腸症候群はストレス社会を反映した腹痛、下痢を主体とした疾患で、近年では徐々にその病態が解明され、診断率の上昇に伴い患者数も増加傾向にあります。憩室症、腸管捻転、慢性便秘は高齢者を中心に増加傾向です。このような状況をふまえ、当院では正しい医療情報を提供し、適切な治療を、より円滑に実施できる環境を整えるために当センターを新設しました。

主に扱う対象疾患

潰瘍性大腸炎	憩室症
クローン病	腸管捻転
腸管バーチエット病、単純性潰瘍	慢性便秘
非特異性多発小腸潰瘍症	悪性腫瘍およびIBD・良性腸疾患関連の悪性疾患
腸結核	原因不明の小腸・大腸の炎症、潰瘍がある患者さん
過敏性腸症候群	

患者さんのご紹介について

医療連携担当にお電話いただき、予約をお取りください。

TEL 03-5339-3808（医療連携担当直通）

平日 8:30～16:40 / 第1・3・5土曜日 8:30～11:40

炎症性腸疾患（IBD）・良性腸疾患センターに
関するお問い合わせ先

TEL 03-3342-6111（代表）

消化器内科、消化器外科・小児外科、小児科・思春期科の各科受付へ

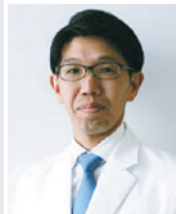
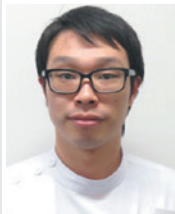
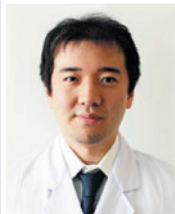
特徴1 内科・外科・小児科の連携による優良な医療体系の構築

当院では消化器内科、小児科において主にIBDの診療が行われております。その中で手術対象例は消化器外科・小児外科で治療を行います。術後は元の診療科でフォローアップ及び診療を継続していくこととなります。小児期から発症した患者さんは、保護される立場から自律して判断できる成人になって行きます。成長に合わせて、成人期にふさわしい医療が切れ目なく提供されることが必要です。

またIBDの重症者は刻一刻と病状が変化するため、診療科間で細かい連携と情報共有が必須となります。クローン病では長期経過の中で腸管狭窄、肛門疾患の合併などで度重なる手術が必要となる場合も少なくありません。憩室症、腸管捻転、慢性便秘症なども最終的に手術適応を判断するには同様の対応が必要になってきます。

このような背景から専門性の高い難病の炎症性腸疾患と良性腸疾患に特化した内科、外科および小児科の三科医師による円滑かつ密接した診療体系を構築しました。

炎症性腸疾患（IBD）・良性腸疾患センター スタッフ

消化器外科・小児外科			
	センター長 勝又 健次 教授		専任スタッフ 栗原 寛 助教
	兼任スタッフ 石崎 哲央 講師		兼任スタッフ 榎本 正統 講師
消化器内科		小児科・思春期科	
	内科 センター長 福澤 誠克 准教授		専任スタッフ 班目 明 臨床助教
	専任スタッフ 根本 大樹 臨床研究医		副センター長 西亦 繁雄 講師

特徴2 多職種連携による診療

幼少期、青壮期から長期的な診療が必要になる場合が多いIBDの診療は、加療を継続中に就学、就労、女性であれば妊娠・出産など、多くのイベントを考慮した治療が望まれます。また近年では様々な疾患を合併している高齢者においても発症が増えております。その中で、難治性のため長期的な免疫抑制療法を行う場合や、重症化による緊急手術などを余儀なくされる場合もあり、病勢・病状に沿った薬物、栄養、食事管理や心理的なサポートが重要になります。当センターでは専門の薬剤師、管理栄養士、臨床心理士と連携を密にすることで、薬剤の説明や栄養指導、メンタルケアを重点的に行い、より患者さんに適切で安全な医療を提供できるように心掛けます。

▶ 2021年4月1日(木)に立体駐車場がオープンしました

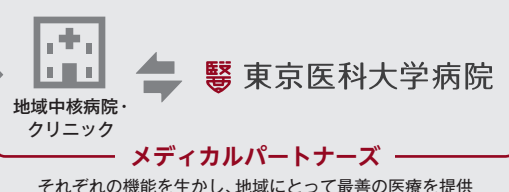
新大学病院新築工事に伴う駐車場の閉鎖によって、ご来院の方々には大変ご不便をおかけしましたが、2021年4月1日(木)に立体駐車場がオープンしました。車での来院の際は、ご利用ください。(有料)

建物名称：立体駐車場棟
構 造：鉄骨3階建
駐車台数：409台 その他の敷地内に38台
そ の 他：1階駐車スペースの他、会議室、カフェ等
2階、3階は駐車場のみ



▶ 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)について

東京医科大学病院では、地域の診療所を対象に医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)を実施しています。地域包括ケアシステムの視点に立ち、地域医療をバックアップするとともに、地域医療機関のパートナーとして、医療機関と地域住民との信頼関係の向上を図ります。



それぞれの機能を生かし、地域にとって最善の医療を提供

お申し込みについて

総合相談・支援センターへお電話ください
申込用紙をお送りいたします

TEL 03-5339-3808(直通)

医療連携登録MAPをリニューアルしました

医療連携医登録されている医療機関について、東京医科大学病院的ホームページ上にMAP表示しておりましたが、この度MAPをリニューアルし、検索機能が充実しました。この変更により患者さんをはじめ、多くの方々が、当院の連携登録医療機関を見つけやすくなります。

当院の連携登録医療機関の先生方におかれましては、この誌面をもって変更のご報告とさせていただきます。



<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/>

医療関係の方へ ▶ 医療連携医登録制度
(メディカルパートナーズ)

